

福津の今昔

～変わる風景 変わらない風景～

久しぶりに訪れてみると懐かしさを感じるふるさとの風景。以前、田畑だった場所や鉄道が通った道は住宅が建ち並び、街並みや景観は大きく変わってきました。今、当たり前^{たゞ}にそこにある風景の写真を見ながら、その歴史を少し辿ってみましょう。



▲宗像警察署津屋崎交番前の海岸通りから、信号前の海側の道を福間方面に進むと建ち並び海の家。海を見ながら食べられる、特産品のマダイのほか、新鮮な魚介類を使った料理は絶品です



▲舗装されていないデコボコの道に「我こそが」と主張し合う店の看板。道幅は現在よりも狭く、道端にドラム缶が置かれるなど、生活道路としての様相を呈しています



▲玄界灘が一望できる抜群のロケーションで、ゆったりと過ごすことができる静かで広い砂浜。写真奥にそびえる大峰山のシルエットは、今も昔も変わっていません



▲子どもたちが安全に遊ぶことができるよう、砂浜から少し沖に棒を立て、その間を網で囲み、小舟を沖に浮かべて飛び込んだり、遊んだりできるよう工夫を凝らしていたといひます



明治39年の初夏、津屋崎千軒の西側の海岸に津屋崎高等小学校の学童の遊泳場ができたのが津屋崎海水浴場の始まりといわれています。海水浴場は年を追ってにぎわうようになり、昭和53年には年間458,000人もの方が海水浴に訪れました。近年、運営する民宿の数は減少しているものの、遠浅で美しい海岸には今も大勢の人が訪れます。

発行 福津市 〒811-3293 福岡県福津市中央1-1-1 ☎42-1111 (代表) 編集 まちづくり推進室 印刷 久野印刷株式会社

